



沖縄のサンゴ礁を守るために

私たちがいつも眺めている海。その海の中には、多種多様なサンゴが住んでいて、海をきれいにしたり、ダイビングスポットとして利用されたりと、自然環境や私たちの暮らしを支えています。

しかし、今沖縄ではオニヒトデの大量発生や白化等により健全なサンゴが減少しています。

そのため県では、大切なサンゴを守るために、オニヒトデ対策を中心に様々な取り組みを行っています。

サンゴ礁の大切な役割

サンゴは動物でインゲンチャクやクラゲの仲間です。沖縄の海には日本にいるサンゴ約四〇〇種のうち、三八〇種以上が住んでいます。

サンゴは、水質や底質をきれいにしたり、地球温暖化の原因となる二酸化炭素を貯蔵したりと、大切な役割を担っています。

また、サンゴ礁は、私たちが暮らす島をつくったり、天然の防波堤として荒波や高波などの災害から私たちを守ったり、ダイビングスポットなどの観光資源や漁場として利用されたりと、私たちの暮らしとも関わりがあります。

このように私たちは、様々な形で、サンゴ礁の恩恵を受けているのです。

今、沖縄のサンゴ礁が危ない

今、沖縄のサンゴ礁は、オニヒトデの大量発生や白化現象、赤土の流出などで危機的な状態にあります。

●オニヒトデの大量発生
オニヒトデはサンゴを食べる動物として広く知られています。

沖縄ではこれまで何度かオニヒトデが大量発生しています。

最近では一九九六年に恩納村でオニヒトデの大量発生が確認された後、県

内各地に広がり、多くのサンゴが食べられてしまいました。

その後、二〇〇一年に慶良間諸島、二〇〇三年に宮古諸島で確認され、現在は、八重山諸島でも増加傾向にあります。

●白化現象

「白化」は、サンゴと共生している褐虫藻が何らかの原因でサンゴから抜け出し、サンゴの骨格が白く透けて見える状態を言います。三〇度以上の高い水温が長い間続くと、白化現象が起きると考えられています。

●赤土等の流出

赤土は、雨が降ると農地や開発地などから海に流れ込み、サンゴの上に積もって呼吸を邪魔したり、海を濁らせサンゴに必要な光を遮るなど悪い影響を与えます。



■オニヒトデ

サンゴ礁を守るために

生物学的に価値が高く、漁業・観光資源として重要なサンゴ礁を守るために、県では戦略的なオニヒトデ駆除などに取り組んでいます。



■オニヒトデの駆除

●駆除海域の設定

オニヒトデは、人の手により一匹ずつ駆除するので、大変な労力と経費がかかります。そのため、オニヒトデが蔓延した状態では、広大な海域を守ることが難しくなります。

そこで、間引き的な駆除ではなく、**「守るべき(サンゴ)の資質(守りたい人がいる)」「守りきれ(継続的に保全活動ができる)」**という視点で駆除エリアを設定し、エリア内のオニヒトデを徹底的に駆除しています。

現在、沖縄本島へのサンゴの幼生の供給源として「最重要保全区域」に設定されている慶良間諸島海域をはじめ、宮古海域、八重山海域で集中的な駆除を行っています。

●地元やボランティアとの連携

保全区域をしっかりと守るために、各地域でも関係機関が参加した協議会を設置し協力しています。

また、漁業者やダイビング団体などを中心に、ボランティアによる駆除活動も行われています。

わたしたち県民にできること

私たちの財産である沖縄のサンゴ礁を守るために、いろいろな人が保全活動をしています。広大な海を守るには、もっと多くの人の協力が必要です。

サンゴ礁を守るということは、自然環境や私たちの暮らしを守ることにつながります。

県民の皆さんも、海をきれいにするための活動に参加してみたいかどうかが、しょうか。



■モンガワラハギと枝サンゴ

お問い合わせ 県自然保護課 TEL:098-866-2243 FAX:098-866-2240